

**令和6年度文京区アカデミー推進協議会
第1回分科会(スポーツ分野)概要記録**

日	時	令和6年8月6日(火) 18:26～20:18
会	場	文京シビックセンター21階 2103会議室
出 席 委 員	座長 青木 和浩 脇 弥恵子、石田 廣行、五十嵐 幸輝	
欠 席 委 員	井上 充代	
事 務 局	長塚アカデミー推進部長、矢部アカデミー推進部スポーツ振興課長、 金子スポーツ振興課スポーツ振興係長、高橋スポーツ振興課施設等担当主査 橋本スポーツ振興課施設等担当主査	
資 料	次第、令和6年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。) 資料第2-1号、資料第2-2号	
(議事) 1 議題 ◎委員意見 ◆事務局説明	1. 令和5年度の事業実施状況の点検・評価について ① <u>分野別基本方針 だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎新型コロナウイルス感染症が落ち着き、子どものスポーツ参加の機会が増えてよかった。Bunkyo Sports Parkのスケートボード初心者教室は手軽なため、子どもたちにとって参加しやすかった。メジャースポーツも良いが、アーチェリーのようなスポーツも機会を増やすと様々なスポーツ体験ができるようになる。大人にとってやってみたい競技もあるため、大人向けの教室も開催したら良いのではないかな。 ◎ボランティアは総数として減っている。潜在的にやりたいと思っている人に参加しやすいメニューが提供できれば、多くの人が参加するようになるのではないかな。 ◆ボランティアは登録が70人、東京五輪時の登録数は多かったが、直近一年で活動がなかった人は名簿から外している。中学生、高校生の登録があるように若年層からの応募があるので、伸ばしていきたい。 ◎Bunkyo Sports Parkは子どもと参加し、いろいろな体験ができてよかった。初心者向けスポーツ教室は、一人で始めづらいアーチェリーや弓道といったスポーツがあり、開催意義がある。400人という参加人数を評価対象としているが、どう評価すべきか難しい。また、事業周知の今後の方向性を聞きたい。 ◆あくまで延べ人数であり、指導する側の人数も踏まえて 400 人となっている。連盟の方の協力もあり、普段触れることの難しい競技をする機会を子ども達に提供している点は、一定の効果を生んでいると考えている。スポーツに関心の集まる時期に合	

	わせて周知を行うなど工夫する。 ◎「する、見る、支える」の3点でスポーツに関与する人を増やすには、まず見る機会を増やすことが重要である。例えば観戦機会の拡充である。次にするが重要で、普段スポーツに関わらない人でも関心のある他のイベントにあわせて体験機会を設けると非常に有効である。競技の選定方法は、気軽にできる点や道具の必要の有無も含め検討してほしい。全体数を増やすためには親も楽しめるものにとするとよいと思う。 ◆見るは区民にとって参加しやすいものである。例示として先週、バスケットボールのパブリックビューイングがあり、みんなで一緒に盛り上がることもできた。事業の実施に当たっては子どもだけでなく、親の世代もスポーツに触れることを意識しており、巨人軍と一緒にいる「ボール投げ&走り方教室」、トヨタと行っている「ラグビー教室」といった取り組みなど、区内の様々な団体と協力しながらやっている。なお、支える人を育てることは難しいが、指導者レベルを上げる事業も可能な限り継続し、新たな取り組みも検討している。 ◆先日巨人軍とのコラボイベントでは、親子でグラウンド体験や巨人戦の観戦を行っており、親子で参加できる事業を実施している。 ◎初心者スポーツ教室は、令和4年度と種目が変わっていないが、他の種目を取り入れてみるのも良いのではないかな。 ◆10年競技を変えていないが、競技によって主な年齢層も異なり、現在実施の教室は一定の人気がある。安全性の面でも人数を制限している部分もあるが、新しい競技も検討していきたい。 ◆ここで、障害者スポーツの拡充について取り組みを紹介する。筑附大学付属視覚特別支援学校から連絡があり、十分に練習できるプール確保の相談があった。そこで週2回の練習環境を支援することとし、パラリンピックに向け学生を応援している。ほかにも、シュノーケルを装着しないと顔に水をつけられない子どもの保護者からの相談に対し、合理的配慮を踏まえ指定管理者と協議し、ヘルプマークの付いたスイムキャップを用意し着用することで、シュノーケルの使用を許可する運用に変更した。バリアを無くしだれでも楽しめる場の提供を進めていく。 ◎eスポーツは障害のある方も取り組むことのできる、するにつなげる可能性もあり、検討の余地があるのではないかな。 ◆デジタルの活用は有効と考えている。VR技術を活用し、ゴーグルを使ってカヌーやサイクリングが体験でき楽しめる工夫を行った。引き続き体の不自由な方も体験で
--	--

	きる取り組みを進めていきたい。 ◎評価の比較が令和元年度なのはなぜか。 ◆本計画の策定に当たり、実態調査を行った年が令和元年度のためである。また、計画の目標値は、基準年から最終年に向けたものであるが、毎年数値の出るものは前年と比較している。 ◎本方針については、適切に実施していると評価できるが、見るという入口の部分強化していく必要がある。また、ボランティアの人材不足は課題であるが、若い人の参加が増えているのは良い点である。スポーツ・インテグリティといったスポーツ倫理にも注視して進めていく必要がある。さらに、eスポーツも含め、デジタルの活用はこれから必須である。対象者が子どもに偏っていることもあり、例えば健康寿命を延ばすための中高年に向けた取り組みを行ってはどうか。 ② <u>分野別基本方針</u> いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎どなたでもできますという記載があるが、一般開放は一人で行っても利用することが可能なのか。その点に関して周知はあるのか。そのことが書いてあると、一人でも参加しやすいのではないか。また、一人でスポーツをするのではなく、コミュニティが生まれることで続けやすくなると思う。区民大会もチームがないと参加できない。例えば、その場に集まった人でチームを作り、楽しめるものがあっても良いのではないか。コミュニティの形成の促進は継続につながり、地域のためになる。ローラースポーツは個人スポーツだが、コミュニティができ、同様の体験があった。 ◆スポーツ交流ひろばでは、指導員もいるため、複数回参加することでコミュニティができるのではないか。以前バドミントンに通っていた時も段々とコミュニティができた。一人で参加できることの周知・記載方法を検討し工夫したい。 ◆コミュニティ形成の取組は具体的にはやっていない。ただ、初心者スポーツ教室も含め、その事業だけでなく、その後の活動に繋げることができる。一人で参加するきっかけづくりにも力をいれていきたい。 ◆サッカーは大人向けの教室をやっている。比較的小子どもや親子に注目しがちであるが、工夫をしていきたい。 ◎初心者向けスポーツ教室の3種目を選んだきっかけは何か。
--	---

	◆学校では指導を受けられないが、指導者なしでは事故につながる危険性のある競技を選んでおり、初めに用具を要するものでもある。競技を選定した際には、始めるきっかけを提供したいとの体育協会の意見も踏まえ、現在の3種目になっている。 ◎学校で指導を受けたハンドボールのような種目も、大人になって行う機会が少ないため、参加への機会づくりに取り組むことを検討してほしい。 ◎様々な環境整備をしている印象はあるが、調査結果の満足度36.3%は低いようにみえるが、なにか理由はあるのか。また、算出方法も知りたい。 ◆36.3%の現状値は満足、どちらかといえば満足の合計割合である。単純に施設数が足りないことや、狭いことも要因として考えられるが、アンケートを答えた人の捉え方も様々である点が挙げられる。 ◎今の話を受けアンケートの取り方には改善の余地があると思う。文京区の施設開放はとてありがたいものだが、解放施設が増えると安全面が気になる。安全確保の取り組みを聞きたい。また熱中症対策はどのように行われているのか。指標もあるのかも聞きたい。 ◆アンケートの取り方については認識が統一できるように意見を参考に工夫したい。 次に施設開放の安全面の対応として、保険に加入している。安全性の確保では指導員と管理指導員を複数人置いている。例えばプール開放の場合、100人以上で監視員を5人以上のように事業によって指標を設けている。スポーツ庁が示しているものに準拠する形だが、改めてスポーツ交流ひろば等、現在の人数が適正であるかも含め確認する。熱中症対策では、今年度から暑さ指数が31を超えた場合、屋外での運動を原則中止とし、屋内でも空調設備がない場合は中止する対応とした。まだ前例はないが、特別警戒アラート、熱中症指数が35を超えた場合、空調が効いた屋内であっても中止の対応をとる予定である。区主催ではないが、協会加盟団体が行うものについても、区の方針に原則あわせてもらうよう了解をとっている。このほかにも、特別警戒アラートが出た場合、施設の貸出しも中止する方向で通知している。 ◎スポーツボランティアは環境づくりのための人的な面で重要だと思うが、持続可能性も踏まえるとボランティアだけに頼るのは無理があるのではないか。謝金以外で対価となり得るものを検討したほうがよいと思う。例えば施設を割引するのはどうだろうか。ボランティアを行う人にも責任が伴うので、何かしらの対価を検討してほしい。 ◎インクルーシブスポーツ推進事業等補助金はどのような制度か。
--	--

	◆子どもからお年寄りまで年代に偏りなく、障害にも配慮されている場合、会場経費や消耗品費、講師や審判の講習を受けるための謝金対象である。上限は10万円で1/2の補助率である。 ◎本方針についても適切に実施されている。しかし、スポーツを取り巻く環境は常に変化しており、話に挙げた安全性も常に検証されるようになっている。ハード面や人員配置を含めて的確に考える必要がある。さらに、スポーツ・イングレリティの配慮も重要であり、LGBTQの配慮も同様である。昔からの継続だけでなく、新しい視点が求められている。 ③ <u>分野別基本方針 スポーツの力を活用した地域づくり</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎部活動の地域移行については、区の競技団体だけで実現は難しい。ローラースポーツの場合、学校外のクラブに所属しなければならないもので、学校では別の部活に所属しなければならない現状がある。このような学校の部活にない競技を広めていくことは難しい。スポーツ団体と協力してもう少し大きな視野で取り組んでいくと実現可能性もあがるのではないかと感じた。 ◆部活動の地域指導員が話題になっており、部活動が地域に支えられることもある。中学生をスポーツ交流ひろばで教えることも考えられる。時代の変化に対応できるかがポイントとなる。 ◎スポーツ指導のボランティアは技術を無償で提供しているので、補助等も考慮する必要がある。サポートがないとボランティアを続けることはできず、やりたい人がいても支える人がいないと継続は難しい。支えることをいろいろな面で手助けすることで、やる人を増やす取り組みにつながれると感じた。 ◆スポ・レクひろばは東京ヴェルディに、この指とまれクラブはスポーツ推進委員に実施を委託し、ノウハウのある事業者が運営を担っている。スポ・レクひろばには地域の専門学校の学生の参加もあり、一緒に活動してくれている。その謝礼が適切かどうかは、検討の余地がある。 ◎地域づくりの面では、スポーツレクリエーションに参加をするだけでなく、参加者の交流を図ることが大事だが、どのようにしているのか。 ◆レクリエーションの要素を取り入れることで、個人で参加してもみんなで楽しめるような形にしている。
--	---

	◎学校の部活動強制加入には問題がある。学校と区で連携することによりクラブとの代替が可能になると思う。民間でも場の提供は行っているが、区が行うことで、信頼感が生まれ、安心して参加できるため、今後も力をいれてほしい。イベントの運営には運動能力の高い人などが多いと思うが、レクリエーションを交流の場として生かすためにも、機会があればコミュニケーション能力の大切さも指導する側が理解する必要があると思う。 ◆部活動の地域移行は教育委員会に加え、アカデミー推進部も会議体に入り検討を進めている。各連盟にお願いしても高齢化等もあり、対応が難しいこともある。まずは土日の移行から進めているところである。また、スポーツ教室を区がやることで安心感が生まれ安価で行えるため、参加しやすいが、継続することは難しい。親子で参加できるものについては、親が興味をもつことで子どもの継続につながる。親の影響は大きく、親が体験することも大事であるため、もう一工夫していきたい。 ◎本方針の地域コミュニティの醸成では交流する仕組み作りが重要であるが、実際にできているのか。例えば、飲み会や餅つきも一種の交流で中身が重要となる。そしてボランティアベースの活動はやはり難しいものがあるので、どのような支援ができるかが大切である。また、区の傾向としては、健康志向のものやユニバーサルスポーツが多い。文京区の特長としてスポーツを楽しむことを重視している。運動能力に関わらずハンディキャップがあっても交流できる。部活動の地域移行では、地域が子どもを育てる形に変化してきている。学校の先生がすべてを担うわけではなくなるため、倫理面や安全面をいかに担保できるかが最大のポイントである。デフリンピックが東京で開催されるのは多様性の理解の面でもよい機会なので、視野に入れてほしい。 全体を通しての意見 ◎文京区は、スポーツにおいて競技志向ではなく、そのことは協会の中でも同様に感じる。スポーツを長く楽しむ特色を引き継ぎいでいきたい。参加を希望しても抽選で参加できない人がいる点は、回数増や会場規模を大きくすることを検討してほしい。 ◆参加人数の拡大について、区が実施する事業では10倍を超えているものもある。受け入れ人数の増加など対応が難しいものも多いが検討していきたい。 ◎時代の変化など様々な対応が求められる中、区は尽力していると思うのでその取組を続けてほしい。 ◎安全面など考慮すべき問題が増えている。スポーツはなくても生きていけるが、止めるのではなく、今ある素晴らしい事業を続けてほしい。
--	--

	◆色々な配慮が増えているが、やらない選択肢をとるのではなく、引き続き頑張っていきたい。
2 閉会	